愛媛県

愛媛果研ニュース

No.２８　平成２２年９月

《　えひめオリジナル高品質中晩柑　「甘平」　》

平成 22 年は宮崎県の口蹄疫問題に目を奪われがちの前半でありましたが、本県の果樹農業も大変厳しい状況にあることは言うまでもありません。最重要課題として温州ミカンの裏年対策があり、落葉果樹の凍霜害対策、また柑橘類の周年供給体制確立のための中晩柑類をはじめとする品種の絞込みや県オリジナル品種の甘平・紅まどんな、産地化が進むブラッドオレンジの栽培技術確立など早急に解決しなければならない課題が山積されています。

今年産温州ミカンの県内主産地の生産量は前年比 95%～84%（7 月時点）と産地間差が大きいものの、各産地とも昨年の低価格を挽回しようと今年産にかける期待は大きなものがあります。今年はミカン産業の正念場とも言うべき年であり、危機意識をもって、研究、行政、団体、生産者が一丸となって生産量確保と高品質果生産に取り組む必要があります。

梅雨明け以降、記録的な猛暑が続いており果実肥大はやや鈍りが見えますが、品質面にはプラスに働いており、更なる高品質化のために適度な潅水ときめ細かい摘果、病害虫防除など最後の仕上げ作業に万全を期すとともに、団体等においては正確な生産量予測と品質・出荷管理の徹底をお願いしたい。

今回の果研ニュースは、栽培面積が急増している甘平の安定生産技術、特に水分コントロールによる裂果軽減と隔年結果対策について、温暖化に伴い宇和島地域を中心に産地化が進んでいるタロッコの高品質果安定生産について、施肥窒素の吸収・樹体内の動きから春肥の施用適期と施用量を示した温州ミカンの春肥施用適期の３篇を掲載しました。研究途中のものもありますが、今後のカンキツ栽培の一助になることを願っています。

果樹研究センター長　大政義久